

3シリーズMDOと一般的なオシロスコープのFFTとの違い

製品比較シート

すべての3シリーズMDOにおいて、標準で1GHzのスペクトラム・アナライザを装備。オプションでは3GHzの周波数帯域



スペクトラム・アナライザの操作性

- 11.6型フルHDタッチ・スクリーン・ディスプレイと受賞実績のあるユーザ・インターフェース
- 専用のタッチ操作によりスペクトラム解析が容易
- 自動マーカによるスペクトラム・ピークの検出
- さまざまなトレース・タイプ、検出方式、自動測定などのスペクトラム解析機能

専用のRFアクイジション・システム

- オシロスコープのFFTに比べてダイナミック・レンジが約15dB広い
- 専用の Nコネクタによる RF 入力
- DANL、スプリアス応答、レベル確度など、スペクトラム・アナライザの仕様は保証値

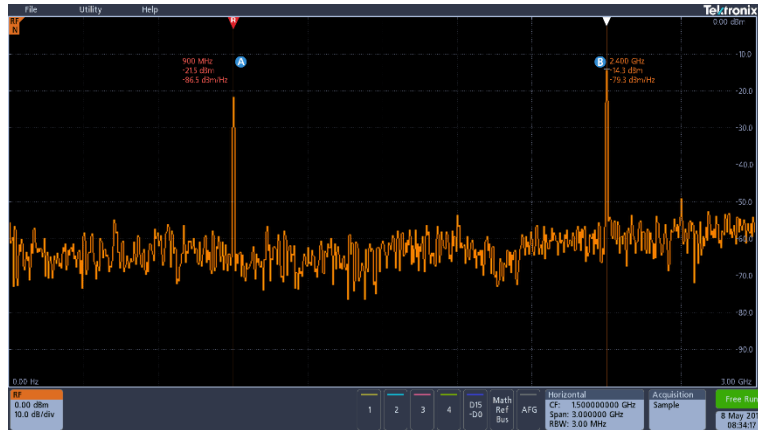
IoT、EMIのトラブルシュートにおけるRFテストのための、スペクトラム・アナライザのより詳細な保証仕様：

<http://jp.tek.com/oscilloscope/3-series-mdo-mixed-domain-oscilloscope>

3シリーズMDOと一般的なオシロスコープとFFTとの違い

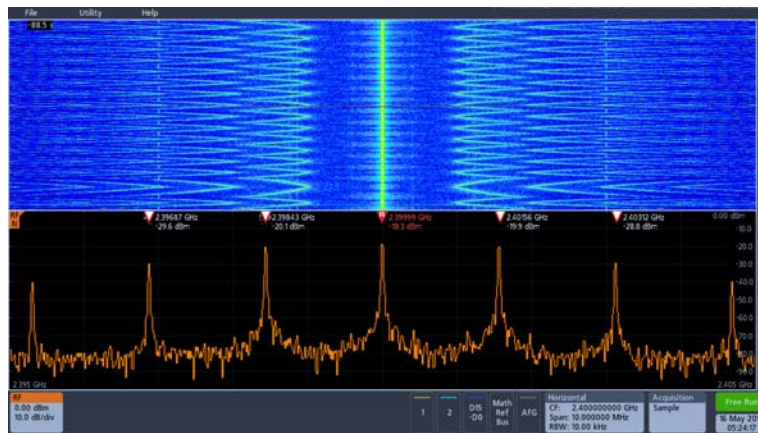
線品比較シート

超ワイド取込帯域



900MHzのZigbeeで受信されたものと、2.4GHzのBluetoothで送信されたパスト状の通信が、1回の取込みで表示された例。

スペクトログラム表示



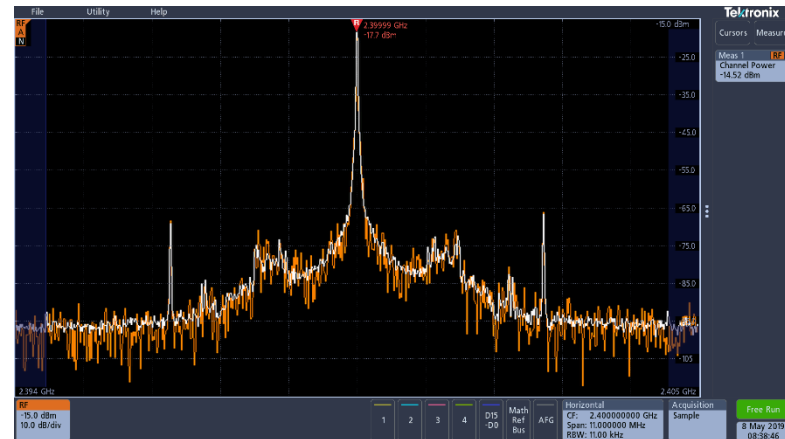
スペクトログラム表示は、ゆっくり変化するRF現象の観測に最適。

自動マーカ



自動ピーク・マーカにより、重要な情報が一目でわかる。この例では、設定したスレッシュホールド／範囲条件に合った5つの振幅ピークに自動的にマーカが付いている。また、ピークにおける周波数と振幅も表示される。

スペクトラム測定



スペクトラム・アナライザの測定項目は、チャンネル電力、隣接チャンネル電力比、占有帯域幅などの一般的なものをサポート。